

## 令和5年度 大阪市立歌島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### ○全国学力・学習状況調査結果

##### 【成果と課題】

###### <国語>

国語の正答率は、全国平均と比較して4.8%、大阪府平均と比較して3%下回った。詳細を見ていくと、思考力・判断力・表現力等の「書くこと」領域の正答率において、全国平均より0.3%下回っているが、大阪府平均よりは0.8%上回っている結果となっている。また、「話すこと・聞くこと」領域は全国平均より7.7%、大阪府平均より5%下回った。加えて、「読むこと」領域については、全国平均より12.8%、大阪府平均より9.7%下回っている。

###### <数学>

数学の正答率は、全国平均と比較して6%、大阪府平均と比較して5%下回っている。詳細を見ていくと、「数と式」領域においては全国平均より1%、大阪府平均より1.2%下回っている。「図形」領域においては、全国平均より5%、大阪府平均より5.2%下回っている。「関数」領域においては、大阪府平均より9.9%、大阪府平均より8.2%下回っている。また、「データの活用」領域においては、全国平均より10.4%、大阪府平均より6.9%下回っている。

###### <英語>

英語の正答率は全国平均と比較して3.6%、大阪府平均と比較して3%下回っている。詳細については、「聞くこと」の領域においては、全国平均より3.4%、大阪府平均より2.4%下回っている。「読むこと」の領域では全国平均より3.9%、大阪府平均より2.9%下回った。「書くこと」の領域では、全国平均より3.7%、大阪府平均より5.1%下回っていた。「話すこと」の領域では、「やりとり」では全国平均より9.3%下回り、「発表」では全国平均より1.6%下回った。

#### ○大阪市英語力調査(GTEC)

##### 【成果と課題】

###### <読むこと>

「読むこと」は大阪市と比較して、9.3ポイント低かった。成果としては、短い簡単な文章をいくつかの「意味のまとまり」ごとに区切りながら、返り読みをせずに英文を読み進める力はついている。課題としては、簡単な文章の大まかな流れを理解することで、そのために、後戻りせずに1文1文をつないで文章の流れをつかみながら、全体のイメージを大きくとらえるワーク等をする必要がある。

###### <聞くこと>

「聞くこと」は大阪市と比較して、2.5ポイント低かった。成果としては、なじみのある表現において必要な情報を聞き取る力はある程度ついてきている。課題としては、英文を聞いて「意味のまとまり」ごとに区切り、状況をイメージして全体の意味をとらえる力を持つ必要があり、そのためにまとまりごとにポーズを置いて状況を思い浮かべたり、状況を表すイラストを選択するワーク等をする必要がある。

###### <書くこと>

「書くこと」は大阪市と比較して、8.1ポイント低かった。成果としては、1つのテーマでは3文程度書く力はついてきている。課題としては、基本的な英文をつなげて短い文章を書く力をつけていく必要があり、「いつ」「どこで」「何を」「なぜ」「どのように」などの観点でアイデアを連想し、英文にするワーク等を行う必要がある。

###### <話すこと>

「話すこと」は大阪市と比較して、15.8ポイント低かった。成果としては、自分に関する話題について、なじみのある表現を使って、質問したり答えたりする力はついてきている。課題としては、簡単な質問に対して、完全な文ではなくてもよいので、簡単な語句や定型表現を使って、その場で答えるような練習を積み重ねていく必要がある。

#### ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

##### 【成果と課題】

###### <結果の概要>

本校の体力の合計点は、男子、女子とも大阪市、全国平均を上回った。

男子の詳細を見ると、握力、20mシャトルランは、大阪市、全国平均を下回ったものの、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅跳びハンドボール投げは、大阪市、全国平均を上回った。

女子の詳細を見ると、握力は大阪市、全国平均を下回ったものの、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳びハンドボール投げは、大阪市、全国平均を上回った。

###### <これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題>

本校の体育の授業では、授業開始時に全学年とも基礎体力の向上を図るトレーニングを行っており、それが一定の成果につながったものと考える。

さらに、「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問に対して、男子が大阪市、全国平均を若干下回る87.8%が肯定的な回答であるのに対し、女子が大阪市、全国平均を大きく上回る90.5%が肯定的な回答であり、この結果が男女の平均値の差につながったと考えることができる。

今後取り組むべき課題としては、「1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合」が男子32.7%、女子41.3%と、大阪市、全国平均を大きく上回っており、自主的な行動により体力の向上を図れているとは言い難い状態であるため、これを、「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問に肯定的に答える生徒の割合をさらに増加させることで、自主的に運動時間を確保する生徒を育成し、その中で、体力の向上が行われるという好循環を生み出施策を行う必要がある。